

賀来小中学校 学力向上プラン1（8月）

学校教育 目標	より良い自分になる ～こどもたちの「よりよくなるう」とする力を引き出す～
育成を目指す 資質・能力	9年間を見通した児童生徒の自己表現力の基盤となる「書く力」の育成

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 大分県の平均点を上回る教科・領域がほとんどであるが、問題の意味を理解し、自分の考えが伝わるように表現を工夫して書く問題で正答率が低い。 【5年大分県学力定着状況調査より】 国語 「考えを明確にして書く」61.8% 算数 記述式問題(2問)21.8% 【6年全国学力・学習状況調査より】 国語 「読んで考えたことを書く」71.4% 算数 記述式問題(3問)57.9% 【8年大分県学力定着状況調査より】 数学 記述式問題 8.9% 【9年全国学力・学習状況調査より】 国語 文章を基に自分の考えを工夫して書く 60.1% 数学 統合的・発展的に考え数学的な表現を用いて説明する 33.4% 英語 日常的な話題について文章を読み、概要を読み取る 36.4% 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、文章表現する 41.5%	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 問題の意味を理解し、自分の意見や考えを条件に従って書いて表現したり、説明したりする問いに対して正答率が低く、無解答の割合も高い。質問調査では肯定的回答が多いが、テスト結果やワークの内容を見ると文章を読み取り、工夫して表現する活動が十分でないと考えられる。 【6年全国学力・学習状況調査(質問調査)より】 「5年生までにうけた授業では、国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていましたか」85.9% 【9年全国学力・学習状況調査(質問調査)より】 ・「1、2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見いだしていましたか」71.3%
	○学校評価では「授業の中でノートに自分の思いや考えを書いたり、発表したりして伝えることができています」と答える児童生徒は79%であった。 ○単元末テスト(1～6年生)では、国語で80点以上が72%、60点未満が7%、算数で80点以上が62%、60点未満が15%であった。 ○学力診断テスト(7～9年生)では、3学年5教科において平均得点70点以上の生徒が48%、30点未満が14%であった。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・日常的な取組として、授業の視点を明確とした振り返りの時間の確保(1年～9年) ・ペアやグループでの教え合い学習を取り入れ、学んだことを伝え合う場の確保(1年～9年) ・英語によるやりとりや表現活動を1年生から実施 ・研修部との連携による自己表現力を軸とした授業づくり	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・朝学習における書く力の定着を目指したミニ作文への取組(1年～6年) ・1分間スピーチの実施・原稿作成(7年)・・・構成員、推敲力 ・「天声人語」の視写と感想まとめ(8・9年)・・・構成員 ・卒業論文(9年) ・家庭学習における日記指導(1～9年)

学力に関する達成指標

- 国語の単元末テスト(1～6年)80点以上の児童80%以上、60点未満の児童5%未満
- 算数の単元末テスト(1～6年)80点以上の児童70%以上、60点未満の児童5%未満。
- 学力診断テスト(7～9年)70点以上の生徒40%以上、30点未満の生徒15%未満。

	【授業改善】	【家庭との協働】
今後の 具体的 な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 (授業改善テーマ) ○9年間を見通した児童生徒の自己表現力の基盤となる「書く力」の育成 (授業改善の重点) ①表現活動を可能にする共感的人間関係の育成 ②付けたい力を明確にした授業の実施 ③一人一人が自分の考えをもつことができるような課題設定 ④児童生徒の活動や表現する場を重視した授業の実施	【家庭との協働】 (学びに向かう姿勢の習慣化を目指す家庭学習の充実を図るための連携・協働) ○「家庭学習の手引き」を発行し、各家庭に配付した上HPに掲載し周知活用努めている ・発達の段階に応じた、家庭での学習時間の提示 ・学年段階に応じた自主学習の運用例 ・筆箱の中身の統一 ・具体的な「生活習慣づくり」「学習環境づくり」の勧め ○保護者による授業サポート(1～6年生) ・家庭科の実習補助 ・読み聞かせ ・校外学習の引率の補助 ○家庭学習支援(1～6年生) ・保護者による音読チェック ・算数の問題、漢字練習のまる付け等 ○進級説明会における7年生の学習についての説明(6年生) ・6年生から7年生の学習方法へとスムーズに移行できるように説明する ・7年生から取り組む「毎日ノート」のやり方を説明し、その学習方法で6年生の「大樹」に学習する習慣を付けさせる ○教育相談(保護者との二者面談)内容の充実・学習の見守り依頼(7～9年)
	〈取組内容〉 ○相手の考えを受け入れ、肯定的に聞く風土を醸成し、共感的な態度や共感的な言葉かけができるような集団づくりを行う。 ○児童生徒から生まれる疑問を大切に、考えをもちやすい課題を設定し、自分の考えや思いを表現できる場を工夫する。 ○ペアやグループ活動を多く取り入れたり、振り返りの視点を提示したりして考えや思いを表現しやすくする。	
	〈取組指標〉 ○毎日の授業の中で肯定的に聞く態度、肯定的な声かけをする態度を身に付けさせ、互いを認め合える集団をつくる。 ○月に1回研修・学習部会において、児童生徒の学習の状況を共有し、改善に向けた授業づくりに努める。 ○単元に1回以上、対話的な活動を中心とした授業、視点を与えた振り返りの場を設ける。	
	〈検証指標〉 ○学習アンケートにおける肯定的回答「自分の思いや考えを書いて表現することができる」85%。 ○教職員アンケートにおける肯定的回答「単元ごとに身に付けさせたい資質・能力を意識した授業ができています。」90%。	
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○自主公開授業による授業改善 ○前・中期での教科担任制の推進および小中教員による乗り入れ授業の実施 ○校内研究と連携した生徒指導の3機能を意識した自己有用感や所属意識を高める授業、共感的人間関係を育む授業の研究 ○ICT端末の効果的な活用と個別指導による、低学力層への支援の充実	